

新人時代の悩みを思い出しながら

法律事務所に就職したが、自分は事務員として本当にやっていけるのだろうか――。

そんな不安を持っている新人事務員さんも多いのではないか。

今回自分のヒヨコ時代を思い出しつつ、

事務員仲間にも新人時代の悩みについて聞いてみた。

法律事務所職員

藤原 健樹

仕事に必要な知識やスキルの習得で苦勞

悩みでダントツが多かったのは、「仕事に必要な知識やスキルを覚えること」。確かに自分もそうだった。

では、どうやって学んだか？ 大多数は「日々の業務やトラブルに直面したときに、それを解決しながら学ぶ」との答え。仕事に必要な知識やスキルは、実際の仕事を通じて弁護士や先輩事務員から学んでいく訳だ。

ただ、小規模事務所勤務の方からは、「弁護士は忙しいし、事務員は自分だけで、質問できる先輩・同僚はいないし…」との声も。

確かに、今でこそ何でも質問できる弁護士や同僚事務員のいる職場で勤務しているが、新人の頃は自分自身も同じように「聞けない」悩みを抱えていた。

法律事務のイロハも判らず、裁判所からの電話に脅え、依頼者との対応にオロオロするばかり。参考にしようと各種マニュアル本も買ってみたものの、どこを見て調べたら良いのかすら判らず宝の持ち腐れの有り様。泣きたい…逃げ出したい…。

業務研修会はとても役に立つ

そんな時、わらをもすがる思いで参加したのが各種の業務研修会だ。弁護士会主催の研修会はもちろんだが、法律事務職員業務研修会世話人会主催の研修会は、夜間に開催されるため昼間の業務への支障がなく安心して参加でき、イロハの口くらいまで学んだ気がする。

また法律会計特許一般労働組合主催の研修会では、法律事務所に留意したマナー講座などもあり、一般企業との相違に気付かされ大いに勉強になった。

そんなこんなで少しずつ経験を積んでくると、「これはあの研修で習ったことだ…」とか、パッと判らなくても「たぶんあれを調べれば…」と何とか日々の業務に向き合えるようになってきた。仕事の疲れで眠たくなる日もあったが、研修に参加して本当に良かったと思っている。

日弁連法律事務職員能力認定研修に向けて

ただ、ベテランの事務員からは、一度研修を受けて判ったつもりになるのが一番困るとの話もあった。

確かに、法律事務の仕事は常に法改正や運用変更等で変わっている。また仕事に慣れてくると時に過信となり、それは失敗にも繋がり易い。二重の意味で常にアンテナを張って自ら点検する作業を怠ってはいけない。

我々の失敗は依頼者の大きな不利益に直結する可能性があることを忘れてはならないものである。

昨年から始まった能力認定制度も、合格・不合格とハッキリ結果の出てしまう試験が気になってしまいが、本当は毎回の研修とその内容を日々の業務の中で確認していく事にこそ意義があるのだろう。この事を肝に銘じて受講を今後役に立てて行きたいものだ。